

肝付町光ファイバー開通記念式典



「はやぶさネット」でつながる町へ

公募したネットの愛称は、16人の方々から17作品の応募がありました。今回決定した「はやぶさネット」は応募者が2人でしたが、厳正なる審査の結果、1人に決定させていただきました。

平成21年度から進めてきた光ファイバー網整備事業が完了し、6月15日（水）、光ファイバー開通式が高山やぶさめ館で行われました。

開通式では、大浦振興会と会場をつなぎ、ライブ中継を行いました。振興会長の白坂義信しろさかよしのぶさんは、ウェブカメラを通して、「光も通じるようになって喜ばしい。光を使って町立病院の診察を受けられないか。また、独居老人の見守りに活用できないか」と町長に対し話され、町長は「光を使い診療など行えるように活用したい。また光を使い大浦を発信していきたい」と話されました。

ちなみに「はやぶさネット」に決まりました。

今回の総事業費は国の交付金を活用し、13億3350万円で、NTT西日本が総延長306キロにわたって町内全域へ光ケーブルを張りました。

これにより、肝付町は、情報通信分野において、都心部と遜色のない環境を手に入れることができました。

今はまだ環境が整ったに過ぎず、これからはこの情報通信環境を最大限に有効活用し、本町の将来に向けた継続的発展をいかに目指していくかを、住民の方々と一緒に検討、実施していく必要があります。その基本的な方向性を示すものとして、「肝付町地域情報化基本計画」が策定されました。



大浦振興会とライブ中継

大浦振興会と式典が行われた高山やぶさめ館をハイビジョン映像通信でつないだ。大浦振興会は、5月末現在19世帯32人が生活しており、本庁からも約2時間かかります。

大浦振興会では、光回線開通にともない、医療や高齢者見守り支援など安心して生活できる環境づくりを期待されています。